

第2の教育の場としての再生

建物外観



基本情報

大学名：九州工業大学
 建物名：明専寮
 工期：平成24年10月～平成25年3月
 構造・階数：RC・地上4階
 延床面積：2,055㎡
 事業費（設計費含む）：369,968千円

寮室イメージ



整備の方向性

○『技術に堪能なる士君子』を協働して培う

- ・本学は、今から100年以上前の1909年に明治専門学校（明専）として開学し、工学部は100年を超える歴史と伝統を受け継いだ学部である。
その教育の原点は、寮を教育の中心にするという開学時の全寮制にあり、寮生活を通じて磨かれた多くの高度技術者（「技術に堪能なる士君子」と呼ばれる）が、100年を超える歴史の中で、国内・世界で活躍し、世界に通用する高度技術者を養成する大学としての今日の名声を築き上げてきた。
- ・平成21年度から3年間の一時期、老朽化のために廃寮となったが、再び寮教育の良さが見直され改修整備を行った。

計画・設計上のポイント

○入居者の居住空間の改善

- ・部屋は全個室とし、ユニットシャワー、トイレを整備した。
- ・利用者の誰もが安心・安全、快適に利用できるユニバーサル・デザインを採用。
- ・様々な行事に対して、インテリジェント化を含め、適宜柔軟に対応できる計画。
- ・入居と同時に新しい生活をスタートできるように、生活に必要な寝具・家具・家電セットを入居者に提供している。

○施設水準の向上

- ・省エネルギー、自然エネルギーの活用など、施設・運営・廃棄に至るまでのライフサイクルを通じた環境負荷の低減と、ランニングコストに配慮した。

○設計プロセス・推進体制

- ・建築担当・電気設備担当・機械設備担当の設計チームと設計事務所で、ユーザーとのヒアリングを繰返し行うことで、要望に応じた設計を進めて行った。

Before



After

建物外観



シャワーブース



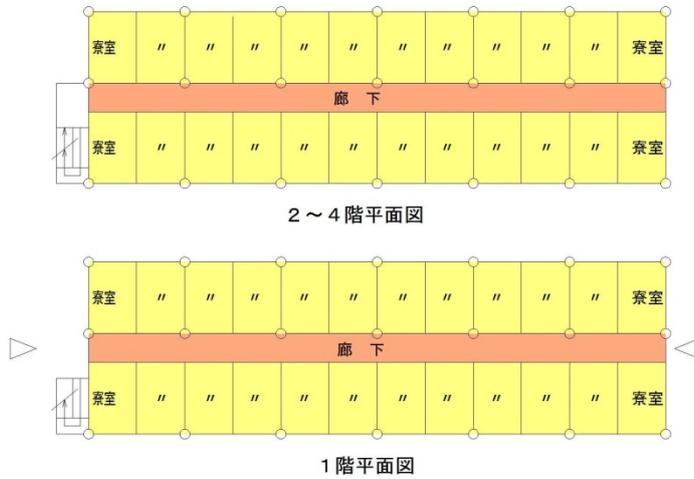
廊下・オープンスペース



個室



Before



4階	24室
3階	24室
2階	24室
1階	24室
合計	96室



After

1階平面図 (床面積 48.9㎡)

● Aタイプ (48室)

● Bタイプ (2室)
・バリアフリー

1階平面図兼配電図

2~4階平面図 (床面積 1,53.9㎡)

4階平面図

3階平面図

2階平面図

・出入り引き戸

・シャワールーム

・手すり

別荘個室	
4階	14室
3階	14室
2階	14室
1階	8室
計	50室

○家賃について

Aタイプ 15,000円+光熱費4,000円

Bタイプ 15,000円+光熱費4,000円

○建物設備等について

・玄関オートロック・管理人常駐・キッチン・ランドリー・研修室・ラウンジ・メールBOX・シューズBOX・多目的スペース

・各部屋に机・ベッド・エアコン・照明・シャワールーム・トイレ・クローゼット・棚・カーテン・TV端子・インターネット

● 自転車置場

施設整備の効果

○第2の教育の場

- ・寮を第2の教育の場と捉えていることから、寮における共同生活を通じて、グローバルリーダーとしての「技術に堪能なる士君子」の素養である。
 - ①高度技術者として世界に羽ばたく志
 - ②人格を高めるための主体的行動力
 - ③インターナショナルコミュニケーション力を、協働して培うことを目的としている。

そのため、次のような教育プログラムを実施している。

- ①教養教育プログラム
- ②英語教育プログラム
- ③主体的イベント企画

○教育研究の質の向上

- ・国際的コミュニケーション能力を涵養するため、平成26年度に明専寮のリーダーとして引き続き在寮することが決定した8名の学生をマレーシアプトラ大学に派遣した。
- ・平成26年度にグローバルリーダー教育の一環として、教養教育プログラムを9回、ネイティブスピーカーによる少人数制の語学強化プログラムを30回実施した。
- ・学生の海外留学派遣者数の増（H24(116人)に比べてH26(393人)は277人増）

○自主学習環境の整備

- ・グローバルリーダー教養教育において、H26年度は身近な北九州に関係するテーマを取り上げ、市役所にインタビューへ行くなど、フィールドワークの要素を取り入れた。また、発表内容をより充実させるために最終発表の前に中間発表を行った。
- ・国際交流協定校の増（H24(72校)に比べてH26(92校)は20校増）



主体的イベントプログラム



英語教育プログラム

